

伊豆の国市長
望月良和



明けましておめでとございませう。市民の皆様方には、ご家族様おそろいにて輝かしい新春をお迎えのことと拝察申し上げます。

伊豆の国市は、昨年の四月一日に「自然を守り、文化を育む、魅力ある温泉健康都市」を将来像として、誕生いたしました。

そして、この将来像を実現するために、次の六つの基本方針を掲げて、行政を執行してまいりました。

- 1、美しい自然に恵まれた快適な空間のまち
- 2、生き生き働く活気に満ちた産業のあるまち
- 3、未来を担う人を育み豊かな歴史・文化を築くまち
- 4、だれもがすこやか元気に生きるまち
- 5、住みたい訪れたいにぎわいのあるまち
- 6、みんなが主役、明日に向かって進むまち

旧三町の良さを最大限に活かしつつ、住民の皆様が真に「伊豆の国市」の市民として、一体感を持って融和が図られるよう進めてまいりますので、今年もよろしくお願いをいたします。

昨年も世界の各地で地震災害やハリケーンによる水害も発生し、悲惨な出来事や悲しい事件が多くありました。幸い私たちの近隣では台風による被害も少なく、安堵いたしております。本年も無災害、無事故を願

うものです。

さて本年は、丙戌、甲子から数えて六十干支の二十三番目、今年還暦を迎える人は、一九四六年（昭和二十一年）生まれの方で、いよいよ戦後生まれの「団塊の世代」と言われる時代の皆様が還暦を迎えます。

「戌」は昔から人とかかわりが深く、勇猛従順であると言われ、人間の大切なパートナーであり、「知恵」「勇氣」「誠実」の代名詞のような動物です。「犬も歩けば棒に当たる」は、いろはカルタの一枚目で、「たとえ才能や運がなくても、思いもよらぬ幸運に会う」と言われています。今年も、慎重な心配りのもとに、積極的な努力を惜しまず、良い年としたいものです。

平成十七年度は、旧三町の持ち寄り予算として、合併協議会の中でできあがってきたものですが、平成十八年度は、五万人規模の身の丈にあつた財政規模を堅持し、合併の意義に基づいた行政運営に心がけたいと考えておりますので、市民皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びに当たりまして、今年こそ明るい兆しの見えてくることを願ひ、地域経済に活力が生まれ、住民福祉の一層の向上を目指したいものです。

市民皆様方の旧に倍してのご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、本年が実り多き年となりますことを祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

今年が戌年

今年が戌年です。

戌といえは「知恵」「勇氣」「誠実」の代名詞のような動物。昔話の「桃太郎」や「花咲爺」に登場するのも、そういう犬たちです。主人公が亡くなった後も毎日駅前を待ち続けた「忠犬八子公」のお話は有名です。

このように、犬は昔から、人間の大切なパートナーであつたわけですが、今でも、狩猟犬や牧羊犬、盲導犬や警察犬、そして、災害救助犬として、被災地などで活躍する場面を目にすることが多くなりました。

ところで、妊産婦の帯祝いには「戌の日」が選ばれるように、犬は安産、多産の象徴とされています。では、戌年に生まれた人はどのくらいかというところ、平成十七年一月一日現在の総務省による推計人口では、戌年生まれの九百八十三万人で、総人口の七・七%を占めています。これは、十二支のなかで十一番目、酉年に次ぐ少なさです。

「犬に論語」(どんなに道理を説いて聞かせても効果がなく、むだであるの意)、「犬の遠吠え」(臆病者が影で虚勢を張り、人の悪口を言うことのとたとえ)、など、「犬」が登場することわざはたくさんありますが、犬の「勇氣」や「誠実」さを表すようなことわざは、なかなか見当たりません。

いろはカルタの一枚目は、「ご存知「犬も歩けば棒に当たる」。辞書によると、「何か物事をしようとする者は、それだけに何かと災難に遭うことも多い」、あるいは、「たとえ才能や運がなくても、何かやっついているうちには、思いもよらぬ幸運に会うこともある」という意味とも書かれています。

どちらの解釈をとるにしても、今年も、慎重な心配りのもとに、積極的な努力を惜しまず、関連間違いなしといきたいものです。

新年のごあいさつ

伊豆の国市のさらなる発展



伊豆の国市議会議長
岩崎正義

輝かしい二〇〇六年の新春にあたり、謹んでお慶びを申し上げます。旧年中は、市政の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

近年、台風が日本列島に上陸し、当市においても八月二十五日の台風十一号の襲来は、市内各所に被害をもたらしました。また、アメリカ本土でもたびかさなるハリケーンの襲来で甚大な被害をもたらし、大変な混乱がおきました。ようやく落ち着いた

着きを取り戻そうとしております。昨年四月一日、伊豆長岡町、菰山町及び大仁町が「伊豆の国市」として生まれかわり、新たなスタートを切りました。四月には市長選挙が行われ、私たち市議会も定数二十四名での市議会議員選挙が行われました。六月には初めての定例議会が開かれ、その中で平成十七年度の本予算が審議され、現在に至っております。

さて、国も地方も非常に厳しい財政状況の中、社会情勢では、景気も上向きと言われますが、実感できない

ものが現実であります。また、今後の国の「三位一体」改革がより一層推進され、地方自治体の権限と裁量が大幅に拡大し、真に必要な行政サービスを自己決定、自己責任において行うことが求められております。伊豆の国市においても、行財政改革を積極的に推進し、スリムな組織を形成し、行財政能力を備えた分権型社会に対応する自立した自治体を目指してまいります。

また、現在伊豆の国市総合計画の策定に入っておりますが、新市まちづくり計画の中では旧三町の特徴を活かした新市の将来像を「自然を守り、文化を育む、魅力ある温泉健康都市」と定めております。この将来像の実現に向かって議会、行政が一丸となり邁進したいと考えますので、市民の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

今年も皆様にとつてより良い年となりますよう、心よりご祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

